

# 07 山梨の農業とその発展

発表者：氏名（所属）生命環境学部地域食物科学科 L16FS017 藤浦 利樹  
 氏名（所属）生命環境学部地域食物科学科 L16FS018 古家 ゆりか  
 氏名（所属）生命環境学部地域食物科学科 L16FS022 武藤 沙由美  
 担当教員：村松 昇（生命環境学域）

## 取り組みの概要

本実習では、学生の自発的活動として、地域における農業への参加というケーススタディを通して、現状と問題点を理解し、課題を設定して解決策を探るという一連の学習により、課題の発見から解決へ至る調査・分析・計画などの技術を習得しました。それにより、地域はもとよりグローバルな場で活躍できる実践的能力を身に付けられるように努めました。また、グループ作業により体験的に学習をしました。

## 課題解決の方法

山梨県における農業の現状を知るために県内の農協を訪問し、山梨農業の現状と問題点を探る。また、農作業を体験することにより、農業における問題点の対策を探る。

## 成果

### 1. 稲刈りを体験（2019年10月4日に実施）



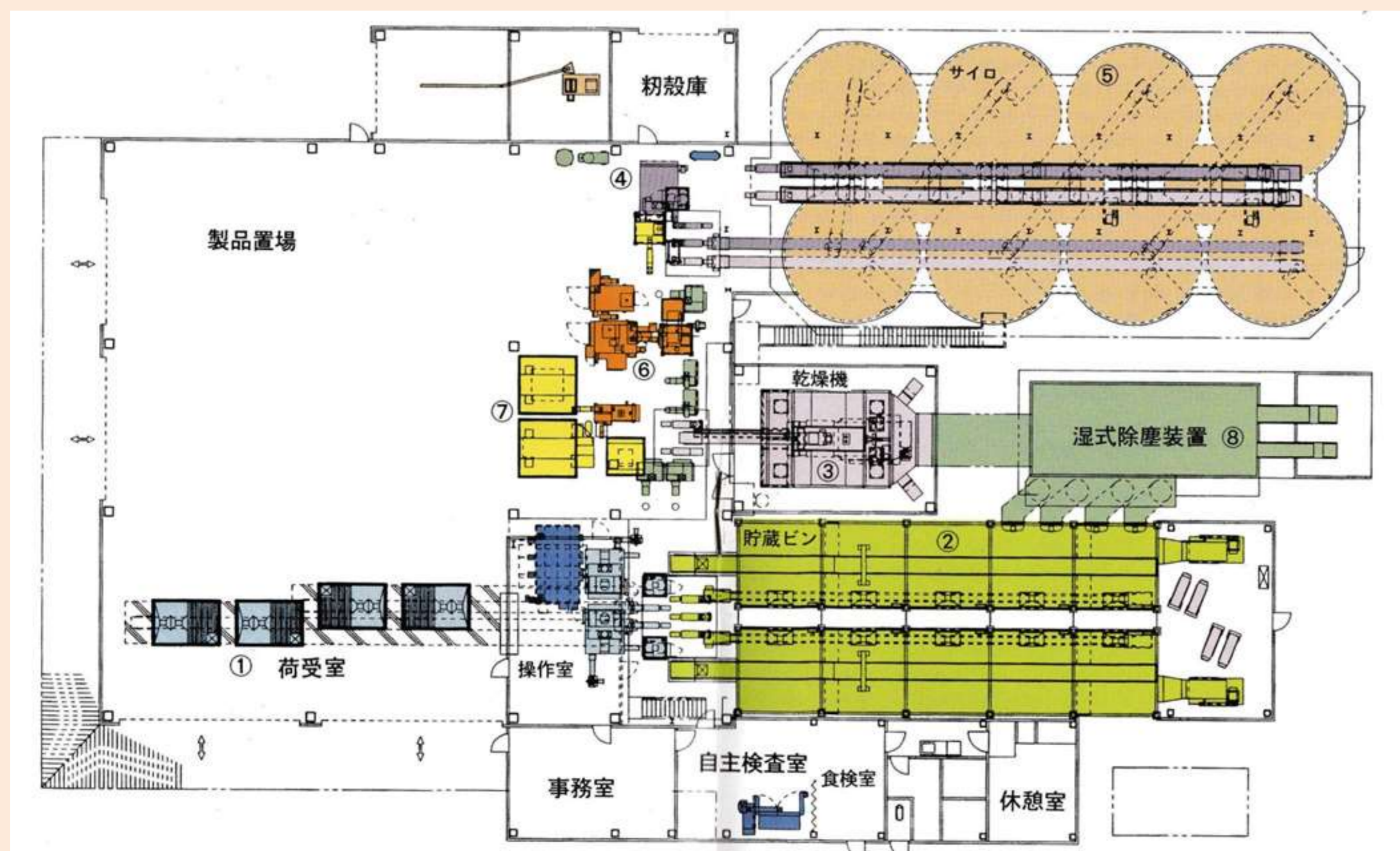
1. 刈取りガマで収穫

2. 稲架の準備

3. 稲束を掛ける

4. 稲架掛けの完成

### 2. カントリーエレベータを見学（2019年11月12日）



カントリーエレベータの配置図

### 3. JA梨北でのブランド化の取り組み

2019年11月12日にJA梨北本店を訪問しました。JA梨北は、山梨県韮崎市・北杜市・甲斐市の一部（旧双葉町）を管轄エリアとしています。山梨県の農業と言えば果樹が有名ですが、梨北では、コメ栽培を中心に行われています。



写真 梨北米のパッケージ

JA梨北の取り組みとして、

#### 1. 県産米→「梨北米」独自ブランド化

県産米として販売すると、JA梨北の独自の取り組みが見えにくくなるため、平成16年度から「梨北米」のブランド名で独自販売を開始しました。ブランドイメージを確立するため、黒地に金文字の斬新なパッケージデザインやテレビCM、地元サッカーチームとのタイアップした広報に努めました（写真1）。

#### 2. 果物、野菜、肉などを「メイドイン梨北」とし統一的なブランド化

梨北米で定着した梨北ブランドを他品目にも波及させることに成功しました。JAの生産組合員にもブランド化の意義を理解してもらうために、管内で生産された農産物を使ったフランス料理を都内有名ホテルのシェフに作ってもらい、食べてもらったとのことでした。